



STUDY GROUP 紹介

臨床の現場を支える仲間たち

ITDN-Tokyo (Implant & Tissue-engineering Dental Network-Tokyo)

臨床応用可能な基礎研究を日常臨床から考える会

加藤英治

東京都目黒区・ITDN-Tokyo 代表
スタディグループ運営先：〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-26-1. ANNEX209 加藤歯科
kato_d@itdn.or.jp



スタディグループ DATA

- ▲設立年月日：2000年12月7日 ▲代表者名：加藤英治 ▲グループ人数：月例会員10数名、年例会員50～100名
- ▲開催頻度：月例会6～8回、年例会1～2回 ▲例会開催場所：月例会・中目黒、軽井沢、年例会・東京国際フォーラム、水道橋 ▲例会形式：月例会・ケーブル、年例会・講演&討論

活動内容

“ITDN-Tokyo”は、2000年に設立以来、15周年を迎える。月1度(以曜日夜)の院内(中目黒)勉強会と6月土日1泊の軽井沢での移動勉強会、年1回年末に講師を招いてのオープンセミナーを開催している。2014年は12月21日(日)に下野正基名誉教授(東大歯大)をお迎えし、“治療の病理インプラント編”と題して東京国際フォーラムにて行った。また癌周病勉強会との併催で西村一郎終身教授(米・UCLA大)の講演会を年1回程度開催している。2014年7月28日(月)には「疼痛を伴う神経障害」について講演とディスカッションが行われ、盛会のうち終了した。

月例会では、日頃の臨床の疑問点や講演会レポートなど、自例ケースをまじえて報告し合っている。院内勉強会に端を発して勤務医やOBなどの少数が診療傍りに気軽に寄れる昼食のような例である。したがって1つの考えや方法の押し売りはしていない。こういった場により敬意をぶつけ合えればと考えている。テーマは形成印象、根管充填から、STAP 細胞論文抄読まで多岐多様で、臨床の会ながら研究論文も3編が科学誌からパブリッシュされている。

特徴と展望

年末の公開講演は代表である筆者の他、過去の招待演者には藤井俊史、林博樹、吉成正雄(東大歯)、高木幸人、小川哲郎(オリンパスヘルメバイオマテリアル社)、

菅原明高、遊竜裕一(技工)、山田将博(東大歯)、故河原優一郎の各先生のほか、多くの先生にご尽力いただいた。とかく群れたがる本邦の講演会組織は大規模化、集団化し、スタティス(学会～医など)を求め過ぎ、真理を探索して知的好奇心を満たすという本来の目的を見失ってきている。この年末の1日に集った参加者全員がITDN会員で参加費は全額を講師招待費や会場費、懇親会費補助とし、費利を目的としない「一夜限り」の使い切りの会を講じてきた。

また月例会においては、臨床は日々積み重ねで長期性がないと意味がない! スタディグループもたとえ2～3名しか集まなくても地道に継続し、経年例を報告し

てこそ意味がある。

とかく教育研修の義務のため、自らのHPにスタティスを掲載することのみが目的になりつつある本邦のスタディグループ、本来は“なぜ、どうして?”が知りたくて下宿に乗った知的空腹学生の流れの果て! 死ぬまで、疑問が続く限り、研鑽は絶えることがないと確信している。

<http://www.itdn-tokyo.com/>より設立主旨: By the bench-top research and clinical studies of dental implant and tissue engineering, we'll reconstruct oral and maxillofacial structure, occlusion, aesthetically and his/her smile.

若手のホープ



吉野 晃

(東京都・吉野デンタルクリニック)

ITDN-Tokyoに参加したのは10年ほど前、代表を務める加藤英治先生によるインプラントの講演会に参加したことが

きっかけ、当時はまさにGBR全盛、新しい材料と方法がつぎつぎと編みだされるなか、長期予後を考慮した慎重な臨床姿勢と、生物学的な検証の重要性を強く訴えられていた。この姿勢はそのまま会の理念となり、現在も変わることはない。会員は、経験豊富な臨床家から基礎歯科医学のスペシャリストまで慣性派扱い、学問には厳しいが例会の出席率が決してよくない私をいつも温かく迎えてくれる懐の深さも併せもつ、情報が豊富なる今、プレザにいることは努力を要するが、今後を邁進して真理を探し、臨床に活かす姿勢を貫いていきたい。